

# ソロモン諸島で咲かせたソフトボールの`花`、普及の最前線

文・写真 / 井上 栄 (青年海外協力協会)

第 3 回

## 普及活動と政変・災害



いのうえ・さかえ / 1980年12月11日生まれ。愛知県出身。小学校からソフトボールを始め、大学までプレー。卒業後は県内公立中学校に体育教諭として勤務。2007年に退職し、青年海外協力隊に参加してジンバブエ共和国(07年6月~08年3月)、ソロモン諸島(08年8月~09年12月及び10年4月~11年3月)に赴任。帰国後は、星槎名古屋中での勤務を経て、公社・青年海外協力協会に所属して駒ヶ根青年海外協力隊訓練所に勤務。

ソロモン諸島でのソフトボール普及活動を伝え始めて3カ月が経ちますが、4月はソロモン人にとってつらく、悲しい一カ月でした。ソロモン諸島の首都及び近郊で大洪水が発生し、死者22名、行方不明者1名、被災者5万2000人という甚大な被害を受けました。被災地の人口が約16万人であることを考えると、その被害の大きさが分かっていただけののではないかと思います。そして、こういった自然災害や政変は活動やその成果を継続していくことに大きな影響を与えます。今回は、練習参加者が増えたことによる新たな課題にどう対応したかを紹介する予定でしたが、「突発的な災害や情勢が活動にどのように影響を与えるか」を書いていきたいと思います。

私がソロモンへ赴任したとき、ソフトボールをしている人はいなかったはずなのに呼びかけに応じて最初の練習に現れてくれたのは、かつてソロモン代表としてプレーをしていた。おぼや

「復活」と表現されることが多くあります。

では、なぜソフトボールは行われていなかったのか。練習に参加した人々がその歴史について語ってくれました。1980年代から90年代には、ソフトボールは各学校・地域でも盛んに行われていたそうです。毎週土曜日には、リーグ戦が開催され、大きなグラウンドで同時に4試合が行われるほど。しかし、98年末から「エスニック・テンション」と呼ばれる民族紛争が首都ホニアラで勃発し、多くの商店や家屋が略奪、もしくは放火に遭いました。

そのような状況の中、個人が所有しているわけではないソフトボール用具は行方知れずとな



4月1日、サイクロンがもたらした大雨で洪水が起き、甚大な被害をこうむったソロモン。日本からは早急に国際協力機構(JICA)を中心に援助物資が送られている。

\*\*\*\*\*  
**ソロモン諸島** Solomon Islands  
 首都: ホニアラ (ガダルカナル島)  
 人口: 約53万人  
 言語: 英語、ピシ語  
 面積: 2万8,900km<sup>2</sup>(岩手県の約2倍)  
 大小約100の島々からなる英連邦の一国で、4000もの集落が点在している。地理的にオーストラリアとの関係が深く、日本ともいろいろな面で友好を結んでいる。国民の大半が農業・漁業に従事しているが、近年は天然資源の開発で注目を浴びる。  
 \*\*\*\*\*



そうです。  
 どこへ行けばいいのか分からないまま年月が流れていたとき、私の呼びかけで「行き場」を見つけた人々がソフトボールをしに集まってくれたのです。私の

帰国後も巡回指導をしていた学校では、体育授業や校内のスポーツ大会でソフトボールを続けてくれていました。  
 しかし、先月、大洪水は起こりました。被害が出ているエリ



ジンバブエのハイパーインフレの象徴ともいえるのが、この100兆(写真左)。1回の外食でこんなにも札束を使う(写真下)



一昨年、ジンバブエの友人から届けられたソフトボール大会の写真。政変から落ち着きを取り戻し、人々は再びソフトボールに興じている



アは、私が普及活動をしていた場所と重なります。1万人近い人が家を失い、避難所生活を余儀なくされています。もししたら多くのソフトボール用具やグラウンドも失われているかもしれません。正常な状況で青年海外協力隊員が「10」の活動をしたとしても、すべてが後に残っていきたくはありません。また、日本においても自然災害が起きたときには、その被害を食い止めることは難しいですが、途上国と呼ばれる地域では自然災害や紛争など、日中が奪われ、築き上げてきたものが一瞬でなくなってしまう危険性は日本以上に高い。10のうち「5」が残っていたかもしれない隊員の活動が非常時には限りなく「0」に近づいてしまうのです。

このように書いてしまうと青年海外協力隊の活動は、まったく意味がないのではないかとと思われるかもしれませんが、そうではありません。この「0」は、見かけの「0」です。すべてが失われるわけではないことを私は知っています。ソロモンでのソフトボール復活もそうですが、ソロモンの前に赴任をしていたジンバブエのソフトボールで次のようなことがありました。

2007年から08年にかけてのジンバブエは、ハイパーインフレと呼ばれる経済状況の悪化で多くの庶民が貧困に苦しん

### Information

#### 派遣前の訓練

青年海外協力隊・シニア海外ボランティアの派遣は、年4回行われている。

派遣前には、福島県二本松市、もしくは長野県駒ヶ根市にある協力隊訓練所でボランティア候補者として派遣前訓練を受ける。その期間は、青年海外協力隊が70日、シニア海外ボランティアが35日。この訓練を終了し、初めて青年海外協力隊員として派遣される。

訓練所では最も長い時間が語学授業に充てられるが、語学以外にも国際協力や異文化理解を深める講座や活動を行うためのスキル、途上国で生活するための健康・安全管理を学ぶ講座等が実施されている。

HP / <http://www.jica.go.jp/volunteer>

でいました。私がいた間に、どのくらいお金の価値が変わったかという点、07年6月に「1米ドル」1万3500ジンバブエドルだったのが、帰国前の08年3月には「1米ドル」4千万ジンバブエドル」になっていました。例えば、千円のお金があれば、1本100円のジュースは10本買えます。しかし、インフレの状況では、1本200円、300円、400円と日に日に値段が上がっていくので、千円で4本程度しかジュースが買えなくなってしまうのです。

そのため、人々は給料をもらうとすべてモノに換えます。物価が上昇しても給料がすぐ上がるわけではないので、大学教員の同僚の給料でさえ、1カ月千円程度の価値しかありませんでした。このような状況下では、ソフトボールは活発に行われません。

しかし、12年にジンバブエ人の友人から、中高生の大会を開催したと連絡がきました。大会は、ジンバブエ全土で開催され、地区予選を勝ったチームで全国大会を行うほどの規模です。ジンバブエへは、93年から05年までの約12年間で9名のソフトボール隊員が派遣されていました。長い年月に渡り、多くのジンバブエ人と隊員が活動をしたからこそ、消えてしまったように見えたソフトボールが、今はジンバブエ人の力だけで見事に復活しています。

私がソロモン諸島で普及活動を行った期間は短く、ジンバブエのようにはなっていないと思いますが、今回の洪水被害を乗り越えたときソフトボールが再開されると信じています。ソロモンのソフトボールがどのような状況になっているか。現在は詳しい状況をつかむことができていませんが、何かは残っていると信じて、また、来月から同国での実際の活動について紹介をしていきます。